

『生ひ立ちの歌』

中原中也

幼年時

私の上に降る雪は
真綿のやうでありました

少年時

私の上に降る雪は
曇（みぞれ）のやうでありました

十七―十九

私の上に降る雪は
霰（あられ）のやうに散りました

二十一―二十二

私の上に降る雪は
雹（ひょう）であるかと思われた

二十三

私の上に降る雪は
ひどい吹雪と見えました

二十四

私の上に降る雪は
いとしめやかになりました……

II

私の上に降る雪は
花びらのやうに降ってきます
薪の燃える音もして
凍るみ空の黝む頃

私の上に降る雪は
いとなよびかになつかしく
手を差し伸べて降りました

私の上に降る雪は
熱い額に落ちくもる
涙のやうでありました

私の上に降る雪に
いとねんごろに感謝して神様に
長生したいと祈りました

私の上に降る雪は
いと貞潔でありました



